

1. 委員からの質疑等

問 資料にある経費の節減努力の継続と事業費の見直しとは具体的にはなにか。

答 収入にあった事業をすすめることと、事故が起きない施設維持のバランスを取りながら、経費を更に縮減できないか、先送りできる事業はないかなどの検討を行っています。

問 説明では中期経営計画での料金改定率5%では赤字は解消されないとされていたが、そのことについて何か考えはありますか。

答 中期経営計画では事業を精査し、相当な事業を先送りしながら料金改定5%を計画していましたが、施設老朽化への更新など計画していた以上に厳しい状況が資料より読み取れると思います。料金改定、事業の精査、企業債利用などにより、市民に負担かけないのが一番ではありますが、むこう5年もその先も難しい状況であります。外部意見としましては、日本水道協会の経営診断では職員数・給与等は全国並みですが、料金と仕事のあり方については厳しい診断となっております。

問 経営診断での料金5割改定しないと収支あわないというのは難しいのではないかな。

答 資産維持費として施設更新費用を料金算定の基準として見ることができ、経営診断では3%算定しています。資産維持費を差し引くと試算では18.14%となりますが、資産維持費が無いと、施設が壊れても改修費用がないのでは、後の世代も困る状況になるため、3%以内で資産維持費を算定していく考えです。

収入にあった事業をすすめることと、事故が起きない施設維持のバランスを取りながら、経費を更に縮減できないか、先送りできる事業はないかなどの検討を行っていきます。

平成29年には消費税改定もあることや、先の電気料値上げも重い負担と感じられたことから、中期経営計画期間の5年を基本に段階的な改定でないと利用者に受入られないと思われま。

問 老朽化による水道管の破裂は過去に起きていますか。

答 最近でも徳田地区で管口径100mmの水道管が破裂しており、昨年度でも7件ほど起きています。全く発生しない年はありません。破裂しますと付近を断水したり、低地にある住宅に漏れた水が流れ込むなど市民生活にも影響がでます。緊急的な対応はしていますが、老朽管が増えると水道管破裂等も増えていくものと思います。

問 (水道管が破裂して) 水が噴き上げることはありますか。

答 地中に埋まっているため水が地表に湧き出ます。水道管が露出していなければ、噴き上がることはありません。

問 大きな自然災害あれば、古い管が破裂するようなことはありますか。

答 地震などあれば可能性はあります。現在、老朽管を耐震性のある水道管に更新しています。

問 (耐震管に整備する) 金額はどのくらいですか。

答 更新はまだ15kmほどなので、今後まだまだ更新していかなくてはなりません。

問 経営診断では 18.14%の料金改定ですが、いきなり改定できないのであれば、どのくらいまで改定することを想定していますか。

答 現在策定しています平成 28 年度予算を基礎として、改めて今後 5 年間の収支計画を策定します。今回の資料とも事業入れ替えなどで変更が生じてきます。平成 28 年度予算を作成するなかで、料金改定率について整理していきます。

問 サンプルダムが完成すると、その水がくる予定ですか。

答 緑丘浄水場は名寄川より取水しています。今後、緑丘浄水場より風連や自衛隊など水を送る計画になっており、水利権についてもそのために 1,510m³ 今より多くもらえるよう準備を進めています。

問 (ダムができて) 名寄地区は今までどおりですか。

答 今までどおりです。名寄川から取水する水の量が今後増えていくというイメージになります。

問 風連地区は地下水ですか。

答 風連地区は地下水です。今まで、名寄と風連をつなぐ送水管はありませんでした。今回、そこをひとつにしようとするものです。

問 取水口というのは、サンプルダムとあわせて 2 つになりますか。

答 名寄川から今後多く取水するということになります。

問 緑丘浄水場の設備的には (今後増えることに対して) 余力ありますか。

答 施設としては十分に整っており、風連や自衛隊への水道管を敷くことも第 2 期拡張事業の中で行います。

問 下水道の昔は雨水も汚水も同じ管で整備してきたが、今では雨水と汚水と分けている。(最終的に) つないでいる下水管は雨水と汚水が一緒の下水管ではないのですか。

答 市内 203 ヘクタールについては、雨水と汚水を一緒に流す合流管により整備しています。それ以外については、雨水については豊栄川に流れています。雨水については汚水の下水道管に接続しないよう指導しており、汚水管は管自体細いもので汚水しか流すことができません。

駅前から市立病院裏の 8 号道路までぐらいが合流管の境目となっており、最近できました住宅地なども合流管とは別なルートで処理場に流れ込みます。

問 街中の (合流区域の) 分流化は計画的にすすめていかなくはいけないと思うが。

答 下水道管を再整備するには、道路を掘り返すこともあり高額な事業費となります。そのため、大雨時等で処理しきれない水は、一度貯めて後々処理するために滞水池を整備しております。

問 老朽管は 40 年経過ですが、現在更新している水道管の耐用年数も同じですか。

答 法的には 40 年です。

2. 委員からの意見等

- ①料金改定にあたっては、平成 29 年の消費税改定も考慮すべき。
- ②生活に不可欠な施設なので壊れて使えないでは市民も納得しない。そのために設備更新が必要なため料金改定が必要なことを市民に理解を得るべき。数%改定してなんとかやりくりしますでは、市民も納得しないのではないか。
- ③市民生活に影響すると人口減少にも影響してしまう。人口減らさないような努力が必要。
- ④市民としては料金は安いほどよいが、それでは生活が成り立たなくなる。生活基盤が損なわれないよう必要な額を改定していくべき。
- ⑤実際に管が破裂していて断水など生活に影響がでている。
- ⑥老朽管更新などを先送りするのは問題。
- ⑦施設更新の先送りが今後に影響する。
- ⑧一気に料金が上がるのも困るが、小まめに上がるのも困ると思います
- ⑨人口の自然減と家庭設備の節水化などによる水量減も見込まないと、料金上げてもプラスにならない。
- ⑩料金上げれば上げるほど節水になるが、水は生活に不可欠であるため料金上げないといけない。
- ⑪上げるときは少し高めに上げたほうがよいのではないか。
- ⑫役所的な考えでは段階的に料金改定となるが、そういう段階ではないのではないか。
- ⑬市民は料金が上がることに反発をする
- ⑭料金上がるとなると市民も覚悟をきめるが、上がる率にもよる。
- ⑮電気料金も上がるときは反発あったが、今ではそうでもない。
- ⑯具体的な率は審議会ではつかみきれないので、日常業務に携わっている市役所が一番詳しい。過去の経過、今後の推移をしっかりと見極めて料金改定してもらいたい。
- ⑰今回のような資料はしっかり市民に伝えていくべきで、市民も納得してくれると思います。
- ⑱経営診断の改定率だけでなく今後の事業展開なども報道してもらわないと、市民に浸透しない。
- ⑲道路改良とあわせて水道、下水道も整備したほうが効率はよい。